

(様式3-1) 研究研修活動記録票(研究会、研修会開催又は参加に要する経費)

嬉野市議会議員

増田朝子

|         |   |                |        |
|---------|---|----------------|--------|
| 開催月日    | 令和5年 5月8日(月)  |                |        |
| 開催時間    | 13:30~15:00   |                |        |
| 開催場所    | 千葉県千葉市美浜区浜田1丁目1番地   |                |        |
| 主催者     | 市町村職員中央研修所(市町村アカデミー)  |                |        |
| 研修会等の名称 | 令和年 5年度 市町村議会議員特別セミナー①<br>【演題】 自治体議会改革に必要なもの  |                |        |
| 講師等の氏名等 | 【講師】 法制大学総長・法学部教授 自治体議会改革フォーラム呼びかけ人代表<br>廣瀬 克哉氏   |                |        |
| 内容・結果等  | 1, ポストコロナ   |                |        |
|         | ①リスクコミュニケーションの失敗 ②市民を情報のタコツボから引っ張り出す ③ 3年余の経験から何を学びとったのか ④ 議会の機能継続(議会版BCP) ⑤ 議会版BCPの2つの役割   |                |        |
|         | 2, 統一選挙を終えて   |                |        |
|         | ① 多極化 ②担い手不足をどう打開するか ③議会は地域社会の縮図になっているか   |                |        |
|         | ④ 議会、議員の役割を多くの人に知ってもらう  |                |        |
|         | 3, コロナ前から議会改革の課題はそのまま持ち越されている   |                |        |
|         | ① 議会間のギャップは拡大している…基本条例の自己点検し、課題を確認し、改善に取り組む   |                |        |
|         | サイクルを確立する (目指す議会像を言語化し協働する作業の繰り返し)  |                |        |
|         | ② 討論の広場…議員間討議がその中心であり、出された判断材料を吟味するプロセスを公開する意義がある。住民も参加できる討論の場を持つことも効果的であり、議員が判断する際の材料を幅広く獲得できる場でもある。   |                |        |
|         | ③ 政策づくりの当事者であること…議案をよりよくチェックできるために、政策作りの感覚をもっているか否かは決定的に重要(政策作りを理解していれば、質問、質疑での提案にも説得力が増す)  |                |        |
|         | ④ 住民の目に見える議会、理解できる議会…住民と共同作業で議会を知ってもらう努力が必要   |                |        |
|         | 【感想】今回の研修の中で一番受けたかった講義であった。「議会改革に必要なもの」たくさんに学んだが、一番印象に残ったことは、討論の広場…議員間討議がその中心であり、出された判断材料を吟味するプロセスを公開する意義がある。嬉野市議会でも出された判断材料をしっかりと吟味し、議員間討議を実施していきたい。 |                |        |
|         | また、議会基本条例を自己点検し、課題を確認し、改善に取り組むことの必要性を改めて感じた。  |                |        |
|         | 上記活動に要した経費  | 経 費 の 内 容      | 支 払 先  |
| 研修費     |   | 市町村アカデミー(JAMP) | 6,200  |
| 旅費      |   | JAL(航空券) 電車、バス | 48,160 |
| 宿泊費     |   |                |        |
| 振込手数料   |   | 佐賀銀行           | 385    |
| 合 計     |   |                | 54,745 |

(様式3-1) 研究研修活動記録票(研究会、研修会開催又は参加に要する経費)

嬉野市議会議員

増田朝子

|         |  |       |     |          |
|---------|--|-------|-----|----------|
| 開催月日    | 令和5年 5月8日(月)   |       |     |          |
| 開催時間    | 15:15~16:45  |       |     |          |
| 開催場所    | 千葉県千葉市美浜区浜田1丁目1番地  |       |     |          |
| 主催者     | 市町村職員中央研修所(市町村アカデミー)   |       |     |          |
| 研修会等の名称 | 令和年 5年度 市町村議会議員特別セミナー①<br>【演題】 女性・若者の参画が政治を変える   |       |     |          |
| 講師等の氏名等 | 【講師】 駒沢大学法学部教授 大山 礼子氏  |       |     |          |
| 内容・結果等  | ・多様性に欠ける日本の政治…国会の女性議員比率は世界最低レベル  |       |     |          |
|         | ・なぜ、地方議会に多様な議員が必要なのか? 多様な議員の参画によって何が変わるのか?   |       |     |          |
|         | ①政策が変わる ②審議が活発化する ③住民の信頼が増す(政策決定の場に当事者が存在することは重要な意味を持つ。特に地方議会は身近な行政を論じる場であり、女性や子育て世代など、多様な声を代表する議員が論議に加わる必要がある。  |       |     |          |
|         | ・多様な性のある地方議会を実現するにはどうすればよいのか? 多様な議員の参画を促すには?   |       |     |          |
|         | ①人材を育てる ②立候補を支援する ③選挙制度を見直す  |       |     |          |
|         | ・地方議会が取り組むべきことは? ①住民参加型の政策決定 ②住民との情報共有   |       |     |          |
|         | ③中学生・高校生の見学・傍聴 ④社会科教育との連携(教員研修) ⑤地元大学との連携  |       |     |          |
|         | ・選挙制度の改革も喫緊の課題…被選挙年齢の引き下げ、立候補休暇制度/議員休暇制度<br>立候補制限の緩和、兼職制限の緩和、供託金の廃止/引き下げ、居住要件の弾力化  |       |     |          |
|         | ・楽しい選挙の実現…選挙住民と候補者とが地域の将来について語り合う場に変える。  |       |     |          |
|         | 【感想】日本における女性・若者の政治参画が世界に比べ遅れている。議員の多様性が高い議会ほど改革が進むともいわれている。多様な議員の参画を促進するためには、地方議会と政治に関心を持ってもらい、立候補の障壁を除去し、選挙のあり方を考えていくことが大切と思う。第一歩として議会の仕事を知ってもらうために、議会の見える化に取り組みたい。 |       |     |          |
|         | 上記活動に要した経費   | 経費の内容 | 支払先 | 金額(円)    |
|         |  | 研修費   |     | 様式3-1に同じ |
|         |  | 旅費    |     |          |
| 宿泊費     |  |       |     |          |
| 合計      |  |       |     |          |

(様式3-1) 研究研修活動記録票(研究会、研修会開催又は参加に要する経費)

嬉野市議会議員

増田朝子

|         |   |           |       |           |
|---------|---|-----------|-------|-----------|
| 開催月日    | 令和5年 5月9日(火)  |           |       |           |
| 開催時間    | 9:00~10:30  |           |       |           |
| 開催場所    | 千葉県千葉市美浜区浜田1丁目1番地   |           |       |           |
| 主催者     | 市町村職員中央研修所(市町村アカデミー)  |           |       |           |
| 研修会等の名称 | 令和年 5年度 市町村議会議員特別セミナー①<br>【演題】 サーキュラーエコノミーの実現と自治体の役割  |           |       |           |
| 講師等の氏名等 | 【講師】 公益財団法人日本生産性本部<br>コンサルティング部エコ・マネジメントセンター長 喜多川 和典氏   |           |       |           |
| 内容・結果等  | ・サーキュラーエコノミー政策の背景と目的…世界人口の急激な増加で資源利用は危機的状態。<br>リニアエコノミーから サーキュラーエコノミーへの転換   |           |       |           |
|         | ・デジタル・マテリアルパスポートの取組み…廃棄物では建設廃材、建設廃材の多くがリサイクルされている。ダウンサイクリング(道路建設の路盤材等)建設物を解体してもその価値を低下させることなく、<br>建材を再利用する方法を見つけやすい情報環境が整備されれば、関連するCO2排出量も削減できる。  |           |       |           |
|         | ・サーキュラーエコノミーの取組み(米国)…解体から逆建設へ逆建設は、従来の解体に代わる<br>新たな解体手法であり、建物を分解してリユース可能な材料を最大限回収する方法  |           |       |           |
|         | ・SDGsレースから生まれるCE型ビジネスモデル…自動車メーカー、ヘルシンキにおけるMaaSなど  |           |       |           |
|         | ・さまざまなアイデア…フィンランド・廃棄物回収ロジスティック管理システム(センサー機器を装着<br>した地下式ゴミ箱)、ビルオーナーと契約を結びキッチンカーの手配を行う、 <b>空き家のコミュニティ</b><br>DIYリフォーム・共用活用、ボトルの拠点回収+住民インセンティブ   |           |       |           |
|         | 【感想】 今、地球規模で一番に考えなければいけない課題の一つが資源の問題である。<br>世界の人口が2050年には、90億人超と予想され、2030年には必要な資源量が地球2個以上ないと<br>維持できないと試算されている。そのような中、欧米では様々な取り込みがなされている。<br>講義自体は、少し難しかったが、まずはそれぞれの地域における持続可能な社会とは何であるかを<br>問いかけ、意識を持つことが必要と感じた。 |           |       |           |
|         | 上記活動に要した経費  | 経 費 の 内 容 | 支 払 先 | 金 額 ( 円 ) |
|         |   | 会費        |       | 様式3-1に同じ  |
|         |   | 旅費        |       |           |
|         |   | 宿泊費       |       |           |
|         |   | 合 計       |       |           |

(様式3-1) 研究研修活動記録票(研究会、研修会開催又は参加に要する経費)

嬉野市議会議員

増田朝子

|         |  |           |       |           |
|---------|--|-----------|-------|-----------|
| 開催月日    | 令和5年 5月9日(火)   |           |       |           |
| 開催時間    | 10:45～12:15  |           |       |           |
| 開催場所    | 千葉県千葉市美浜区浜田1丁目1番地  |           |       |           |
| 主催者     | 市町村職員中央研修所(市町村アカデミー)   |           |       |           |
| 研修会等の名称 | 令和年 5年度 市町村議会議員特別セミナー①<br>【演題】 議会のデジタル化をどう進めるか   |           |       |           |
| 講師等の氏名等 | 【講師】 明治大学公共政策大学院教授 湯浅 愨道氏  |           |       |           |
| 内容・結果等  | ・アナログな議会とは…・情報収集において客観的なデータが不足 ・意思決定や政策データに基づいていない ・意思決定や政策の根拠を説明できない ・決定過程が不透明 ・対面、口頭、物理的な場における同時性 ・押印への形式的依存 ・住民とのコミュニケーション不足、手段が偏っている |           |       |           |
|         | ・議会デジタル化の意義…平時・災害時・コロナ禍にかかわらず議会機能を十分に発揮し、住民とのコミュニケーションを確保(①デジタルトランスフォーメーションの視点により、議会・議員活動を見直す  |           |       |           |
|         | ②危機に強い議会の構築 ③デジタル・インクルージョンの実現 ④議会に何らかの制約で出席できない議員をできるだけ減らし、民意を反映)  |           |       |           |
|         | ・議会のDX化の実例… <input type="checkbox"/> 委員会のオンライン開催 <input type="checkbox"/> AIの導入(取手市議会におけるAI導入: 議会会議録視覚化システム)                             |           |       |           |
|         | ・デジタル化の進め方… <input type="checkbox"/> 公的な手続き(現時点では法的の制限・制約があるものが多い)   |           |       |           |
|         | <input type="checkbox"/> 関連の事務(デジタル化できるものが多いが検討も必要) <input type="checkbox"/> 非公式の手続き(デジタル化できるものが多い 事実上、デジタル化のメリットが大きい)                   |           |       |           |
|         | 【感想】「議会のデジタル化をどう進めるか」このことは、これからの議会活動に欠かせない手段として興味深く受講した。デジタル化を進めるにあたり、セキュリティ、通信障害、機器の故障などの問題もあるが、コストと人材も必要であるので、できるところから取り組み             |           |       |           |
|         | 議会全体でレベルアップしていきたいと思った研修だった。  |           |       |           |
|         | 上記活動に要した経費   | 経 費 の 内 容 | 支 払 先 | 金 額 ( 円 ) |
|         |  |           |       | 様式3-1に同じ  |
| 合 計     |  |           |       |           |